

# 中国語を母語とする日本語学習者の発音上の不安 —教室内的における日本語発音不安尺度の作成と検討—

青 海 佳 子

## 1. 研究の背景と目的

第二言語の学習や使用、習得には、情意要因である不安が大きな影響を与えているとして、これまでに数多くの研究がなされてきた。1980年代以降、第二言語不安<sup>1)</sup>の概念化、及び不安尺度の作成が行われるようになり、第二言語学習には特有の第二言語不安が生じるということが明らかになった (Horwitz et al., 1986 ; MacIntyre & Gardner, 1991)。これにより、不安と第二言語習得との関係について多くの研究がなされ、不安はクラス内での積極性に負の影響を与え、間接的に口頭表現能力にも影響を及ぼすものであり (Ely, 1986)、学習の各段階 (入力、処理、出力) においても習得を妨害する (MacIntyre & Gardner, 1989) など、第二言語習得の成功に作用する重要な要因だと考えられている。

学習者の第二言語不安を測定する際は、これまでに作成されたいくつかの不安尺度が用いられている。母語使用環境<sup>2)</sup>における教室内的での不安尺度としては、主に Horwitz et al.(1986) の FLCAS (Foreign Language Classroom Anxiety) や、MacIntyre & Gardner (1988) の FCA(French Class Anxiety)、FUA (French Use Anxiety) などが用いられている。また、目標言語使用環境における不安尺度としては、元田 (2000) において、教室内、教室外の不安を測る日本語不安尺度が作成され、その信頼性、妥当性が検討されている。

元田 (1998) では、既存の第二言語不安尺度が詳しく分析されているが、これまでの不安尺度における不安項目の内容には、主に発話や他の学習者などに

対する不安を測定する項目が多く、特に、発話は全ての尺度に含まれていることから、これまでの先行研究が発話場面における不安を重視してきたことが指摘されている。

主に発話は、何らかの情報を相手に伝達するために行われるものであり、情報伝達が的確に行えるかどうかは、話し手が発する音声<sup>3)</sup>にも非常に大きく左右されると思われる。したがって、学習者は目標言語で発話する際、発話内容だけでなく、自分自身の発音についても不安を感じている可能性があり、発音をする上での不安が第二言語の使用に影響を及ぼす場合もあると考えられる。実際に、日本語の教育現場では、発音によるミスコミュニケーションが学生たちの間だけでなく、教師と学生との間でもしばしば起こり、その経験が学習者に発音への不安を生じさせ、教室での積極性に影響を与えているのではないかと考えられる場面が少なからずある。

しかしながら、従来の不安尺度には、発音への不安を測る項目が含まれておらず、学習者の発音上の不安を測定することは困難である。

そこで本研究では、中国語を母語とする日本語学習者に対して、日本語の発音についての不安アンケート調査を行い、学習者が日本語を発音する際に感じる不安の現状を明らかにした上で、日本語の発音不安尺度を作成し、その信頼性を検討していく。

調査方法としては、まず、中国語を母語とする日本語学習者が日本語を発話する際、発音に不安を感じているかどうかの予備調査を行い、発音上の不安要因を明らかにする。次に、予備調査で得られた発音についての不安項目を用いて再びアンケート調査を行い、教室内における発音不安を測定する尺度を作成し、その信頼性を検討する。最後に、日本語のレベルによって、発音への不安にはどのような違いがあるのかを考察する。

## 2. 予備調査

### 2.1 目的

中国語を母語とする日本語学習者が教室内で発音に不安を感じているかどうかを調査し、どのような発音に不安を感じているのか、また、どのような状況下で不安を感じるのかを明らかにする。

### 2.2 方法

**調査対象者** …中国北京市内の外国語大学において、日本語を専門として学んでいる日本語学習者 231 名 (男性 39 名、女性 192 名) を対象とする。日本語レベル (自己申告) 別では、初級 88 名、中級 128 名、上級 15 名である。

**調査時期** …2006 年 3 月～4 月

**アンケート用紙の構成** …教室内で発音に不安を感じているかどうかの判断を「全く不安でない」、「不安でない」、「どちらともいえない」、「不安だ」、「非常に不安だ」の 5 段階評価で求める。さらに、どのような日本語の発音に不安を感じるか、また、どのような状況下で発音に不安を感じるかの具体的内容を自由記述で求める (複数回答可とする)。質問紙の言語は学習者の母語である中国語で行う。中国語から日本語への訳は調査者が行い、中国語母語話者に内容の一致を確認してもらう。また、中国語から日本語への訳における不安を表す用語については、元田 (1998) の資料を参考とし、「不安になる」「心配である」「緊張する」「焦る」を用いる。

**不安要素の分類** …自由記述で得られた不安の内容を短文にしてカード化し、内容的な分類を行う。

### 2.3 結果

アンケートで求めた 5 段階評価の結果を「不安でない (「全く不安でない」と「不安でない」を含む)」、「どちらともいえない」、「不安だ (「非常に不安

だ」と「不安だ」を含む)」の3つに分類したところ、図1のように、初級の学習者では、教室内で発音に不安を感じている学習者(48%)のほうが、不安を感じていない学習者(26%)より多かった。中級の学習者でも、発音に不安を感じていると答えた学習者(41%)のほうが、感じていないと答えた学習者(31%)より多く、初級と中級では、発音に不安を感じている学習者の存在が明らかになった。上級では、発音に不安を感じていないと答えた学習者(53.3%)のほうが、感じていないと答えた学習者(26.6%)より多かったが、対象者数が15名と比較的少なかったことから、さらなる調査が必要だと思われる。

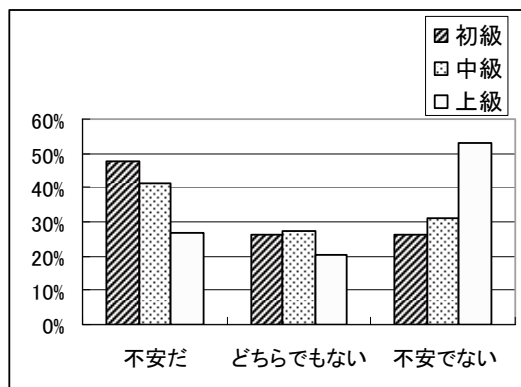


図1 初級、中級、上級の学習者に対する発音不安アンケート結果

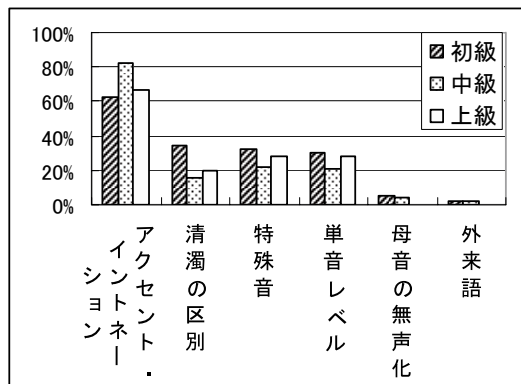


図2 学習者が不安に感じている発音

また、学習者にどのような日本語の発音に不安を感じているかの自由記述を求めたところ、アクセントとイントネーションに不安を感じるという回答が最も多く、初級では全体の約 63%、中級では 83%、上級でも 68%を占めていた。このことから、日本語レベルに関わらず、学習者はアクセントとイントネーションに不安を感じているということが明らかになった。その他では、清濁の区別や特殊音(長音・促音・撥音)、単音レベルに対する不安が比較的多くみられた(図 2)。

さらに、どのような状況下で日本語の発音に不安を感じるかの自由記述を求めたところ、教室内的において発音に不安を感じる状況 41 項目が得られた。教室内的での不安項目以外に、教室外での発音についての不安も 4 項目得られたが、今回の調査は教室内的における発音上の不安を調べるものであったため、これら 4 項目は削除した。

教室内的において発音に不安を感じる状況 41 項目の内容的分類を行った結果、「不確かさ(10)」「間違い(7)」「教師(6)」「特定の教室活動(6)」「他の学習者(3)」「発話(3)」「能力(3)」「言語処理(3)」の 8 内容に分けることができた(表 1)。

また、表 2 は学習者が日本語の発音に不安を感じる状況の、日本語レベル別、上位 3 項目を表している。ここから、初級、中級、上級の学習者は、いずれも教師が自分の言った日本語を理解してくれなかった場合に強く発音に不安を感じるということが分かる。また、不安は、アクセントやイントネーションが分からない単語や文を読む場合にも生じやすく、図 2 で示したように、アクセントやイントネーションに対する発音への不安が、不安を感じる状況にも表れているということが分かる。また、中級では、他の学生に笑われたとき発音に不安を感じると答えた学習者が 14%いたが、これはクラスの雰囲気によっても左右されるものだと思われる。

表 1 学習者が日本語の発音に不安を感じる状況

I「不確かさ」		
<ul style="list-style-type: none"> <li>どんなアクセント(イントネーション)か分からない単語や文を読むとき、正しく発音できるか不安になります。</li> <li>あまり使ったことのない言葉を使って話すとき、正しく発音できるか不安になります。</li> <li>以前覚えた単語を初めて使うとき、正しく発音できるか不安になります。</li> <li>新しく学んだ単語を発音するとき、正しく発音できるか心配です。</li> <li>読む練習をしていない文章を読むとき、正しく発音できるか不安になります。</li> <li>初めて見る文章、文、単語などを読むとき、正しく発音できるか心配です。</li> <li>先生があまり使ったことのない言葉を自分が使うとき、うまく発音できるか不安になります。</li> <li>先生の日本語が分からないとき、自分の発音が悪いのではないかと不安になります。</li> <li>使い方が分からない言葉を適当に使って話すとき、発音も悪くなるのではないかと不安になります。</li> <li>授業の予習を全くしていないとき、うまく発音できるか不安になります。</li> </ul>		
II「間違い」		
<ul style="list-style-type: none"> <li>間違ったアクセントやイントネーションで話してしまったとき焦ります。</li> <li>自分では正しいと思っていた発音が、実は間違っていたとき焦ります。</li> <li>みんなの前で発音を間違えてしまったとき焦ります。</li> <li>自分の言いたいことを言ったが、発音が間違っていたとき焦ります。</li> <li>以前習った発音が、実は間違っていたと気付いたとき焦ります。</li> <li>自分自身、自分の発音は間違っていると感じるとき焦ります。</li> <li>発音で意味が変わってしまう言葉を使うとき、間違えないか緊張します。</li> </ul>		
III「教師」		
<ul style="list-style-type: none"> <li>先生が私の日本語を聞いて分からない顔をしたとき、発音が悪いのではないかと不安になります。</li> <li>日本人教師の前で話すとき、うまく発音できるか不安になります。</li> <li>先生に発音が悪いと何度も直されると焦ります。</li> <li>先生が私の言った言葉と違う言葉に聞きとったとき、発音が悪いのではないかと不安になります。</li> <li>先生が私の日本語を聞いて「もう一度お願いします」と言ったとき、発音が悪いのではないかと不安になります。</li> <li>突然先生に質問されて答えるとき、うまく発音できるか不安になります。</li> </ul>		
IV「特定の教室活動」		
<ul style="list-style-type: none"> <li>先生やクラスメートの前で自由に発表するとき、うまく発音できるか不安になります。</li> <li>みんなの前で教科書を朗読するとき、うまく発音できるか不安になります。</li> <li>先生やクラスメートの前でスピーチをするとき、うまく発音できるか不安になります。</li> <li>クラスメートや先生の前でスピーチをし、それに対する質問に答えるとき、うまく発音できるか心配です。</li> <li>クラスメートと会話練習をするとき、うまく発音できるか不安になります。</li> <li>とても静かな教室で発言するとき、うまく発音できるか不安になります。</li> </ul>		
V「他の学生」		
<ul style="list-style-type: none"> <li>みんなが自分の話す日本語を聞いているとき、うまく発音できるか不安になります。</li> <li>他の学生が私の言った日本語が分からないとき、発音が悪いのではないかと不安になります。</li> <li>他の学生が私の日本語を聞いて笑ったとき、発音が悪いのではないかと不安になります。</li> </ul>		
VI「発語」		
<ul style="list-style-type: none"> <li>できるだけ流暢な日本語で話そうと思うとき、うまく発音できるか心配です。</li> <li>自分の言いたいことをうまく表現したいとき、正しく発音できるか心配です。</li> <li>緊張で早口になってしまうとき、発音も悪くなっているのではないかと不安になります。</li> </ul>		
VII「能力」		
<ul style="list-style-type: none"> <li>他の学生はうまく発音できるのに、私だけがうまく発音できないとき焦ります。</li> <li>テープの日本語がどれだけがんばってもうまく真似できないとき、私は発音が悪いのではないかと不安になります。</li> <li>私が苦手だと思っている音を発音するとき、緊張します。</li> </ul>		
VIII「言語処理」		
<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の言いたいことがうまく表現できないとき、発音も悪くなっているのではないかと不安になります。</li> <li>混乱して何を言っているかわからないとき、発音も悪くなっているのではないかと不安になります。</li> <li>先生の質問にうまく答えられないとき、発音も悪くなっているのではないかと不安になります。</li> </ul>		

表 2 学習者が発音に不安を感じる状況（日本語レベル別、上位 3 項目）

	初級	中級	上級
1	先生が私の言った日本語が分からないとき (35.2%)	先生が私の言った日本語が分からないとき (43.8%)	先生が私の言った日本語が分からないとき (53.3%)
2	教室で声に出して単語や教科書を読むとき (15.9%)	どんなアクセント(イントネーション)か分からない単語や文を読むとき (14.8%)	どんなアクセント(イントネーション)か分からない単語や文を読むとき (20%)
3	どんなアクセント(イントネーション)か分からない単語や文を読むとき (14.8%)	他の学生に笑われたとき (14%)	自分の言いたいことがうまく表現できないとき (13.3%)

### 3. 発音についての不安アンケート調査

#### 3.1 目的

この調査では、予備調査で得られた発音に不安を感じる状況 41 項目を用いて、母語使用環境における教室内での発音不安尺度を作成することを目的とする。

#### 3.2 方法

**調査対象者** …予備調査でアンケートに協力してもらった学習者は除いて、北京市内の大学に在学し、日本語を専門に学んでいる学習者 201 名 (初級 92 名、中級 50 名、上級 59 名) を対象とする。なお、日本語レベルは自己申告に加え、日本語能力試験などの合否も記入してもらう。

**調査時期** …2006 年 5 月

**アンケート用紙の内容と構成** …アンケート用紙の質問項目には、予備調査で得られた発音に不安を感じる状況 41 項目を用いる。質問紙の初めには、「日本語の授業を思い浮かべてください。以下は日本語の発音に関する質問です」という前書きをする。質問紙の言語は中国語を用い、日本語から中国語への訳は中国語母語話者が行い、調査者が内容の一致を確認する。質問項目に対する回答は「全くそう思わない ( 1 点 )」から「非常にそう思う ( 6 点 )」までの 6 件法で求める。

#### 3.3 結果と考察

因子分析結果 …アンケートで得られたデータの解析には、統計パッケージ SPSS(14.0J for Windows)を用いた。まず、発音に対する不安 41 項目について、主因子法による因子分析を行った。なお、今回の調査は探索的段階であるので、因子の予測は行わなかった。因子抽出の基準である最小の固有値は 1.0 とし、因子軸の回転にはバリマックス法を用いた。その結果、固有値 1.0 以上の 7 つの因子が抽出された。それらに対し、それぞれの因子負荷量が .40 未満の

項目と、他の因子との負荷量差が .10 未満の項目、共通性が .30 以下の項目を削除し、残った項目で再度因子分析を行った。その結果、最終的に 34 項目からなる 5 つの因子が得られた (表 3)。以上の分析で得られた 34 項目を日本語発音不安尺度とする。

日本語発音不安尺度の第 1 因子は、主に、スピーチや発表など特定の教室活動で起こる発音不安によって構成されていたので、「特定の教室活動での発音不安」とした。第 2 因子は、どんなイントネーション (アクセント) が分からない文を読むときなど、発音が不確かな場合に起こる不安によって構成されていたので、「発音の不確かさに対する不安」とした。第 3 因子は、みんなの前で発音を間違えてしまったときや、正しいと思っていた発音が実は間違っていたときなど、発音を間違えた際の焦りで構成されていたので、「発音の間違いに対する焦り」とした。第 4 因子は、先生が自分の日本語を聞いて分からない顔をしたときや、他の学生が自分の日本語を聞いて笑ったときなど、自分の発音が悪いのではないかと感じた際に起こる不安で構成されていたので、「低い日本語発音力に対する不安」とした。第 5 因子は、できる限り流暢な日本語で話そうと思うときなど、教室内で発話する際に起こる発音不安で構成されていたので、「日本語での発話における発音不安」とした。

以上の因子分析で得られた日本語発音不安 34 項目、及び下位尺度である因子 1 から因子 5 までの統計量を求めたところ、表 4 のようになった。

**日本語発音不安尺度の信頼性分析** …日本語発音不安尺度の内部一貫性を確認するために、クロンバックの  $\alpha$  係数を求め、信頼性分析を行った。その結果、日本語発音不安尺度では .95 の値が得られた。また、因子 1 の「特定の教室活動での発音不安」では .93、因子 2 の「発音の不確かさに対する不安」では .89、因子 3 の「発音の間違いに対する焦り」でも .89、因子 4 の「低い日本語発音力に対する不安」では .83、因子 5 の「日本語での発話における発音不安」では .87 の値が得られた。以上の結果から、日本語発音不安尺度の信頼性は充分

表3 日本語発音不安尺度の項目と因子パターン行列（バリマックス回転後）

項目	I	II	III	IV	V
<b>I 特定の教室活動での発音不安</b>					
29 クラスメートや先生の前でスピーチをし、それに対する質問に答えるとき、うまく発音できるか心配です。	<b>0.53</b>	0.17	0.26	0.23	0.27
30 突然先生に質問されて答えるとき、うまく発音できるか不安になります。	<b>0.63</b>	0.25	0.13	0.06	0.27
31 先生やクラスメートの前でスピーチをするとき、うまく発音できるか不安になります。	<b>0.75</b>	0.24	0.22	0.09	0.10
32 先生やクラスメートの前で自由に発表するとき、うまく発音できるか不安になります。	<b>0.73</b>	0.14	0.10	0.08	0.25
33 みんなの前で教科書を朗読するとき、うまく発音できるか不安になります。	<b>0.68</b>	0.42	0.19	0.07	0.00
34 クラスメートと会話練習するとき、うまく発音できるか不安になります。	<b>0.74</b>	0.20	0.10	0.18	0.24
35 自分の言いたいことがうまく表現できないとき、発音も悪くなっているのではないかと不安になります。	<b>0.54</b>	0.10	0.11	0.32	0.36
36 自分でも何を言っているか混乱して分からないとき、発音も悪くなっているのではないかと不安になります。	<b>0.58</b>	-0.04	0.20	0.21	0.29
37 とても静かな教室で発言するとき、うまく発音できるか不安になります。	<b>0.67</b>	0.21	0.09	0.22	0.09
39 日本人教師の前で話すとき、うまく発音できるか不安になります。	<b>0.57</b>	0.29	0.17	0.07	0.06
40 授業の予習を全くしていないとき、うまく発音できるか不安になります。	<b>0.59</b>	0.32	0.17	0.10	0.09
41 みんなが自分の話す日本語を聞いているとき、うまく発音できるか不安になります。	<b>0.68</b>	0.29	0.17	0.21	0.13
<b>II 発音の不確かさに対する不安</b>					
13 初めて見る文章、文、単語などを読むとき、正しく発音できるか心配です。	0.23	<b>0.66</b>	0.18	0.16	-0.08
14 以前覚えた単語を初めて使うとき、正しく発音できるか心配です。	0.24	<b>0.63</b>	0.15	0.15	0.20
15 新しく学んだ単語を発音するとき、正しく発音できるか心配です。	0.30	<b>0.64</b>	0.15	0.00	0.25
16 あまり使ったことのない言葉を使って話すとき、正しく発音できるか心配です。	0.24	<b>0.67</b>	0.19	0.00	0.33
17 読む練習をしていない文章を読むとき、正しく発音できるか心配です。	0.20	<b>0.79</b>	0.14	0.07	0.21
18 どんなイントネーション(アクセント)か分からない文を読むとき、正しく発音できるか不安になります。	0.24	<b>0.62</b>	0.22	0.09	0.19
<b>III 発音の間違いにに対する焦り</b>					
7 自分の言いたいことを言ったが、発音が間違っていたとき焦ります。	0.29	0.08	<b>0.52</b>	0.29	0.18
8 みんなの前で発音を間違えてしまったとき焦ります。	0.27	0.21	<b>0.57</b>	0.27	0.09
9 自分自身、自分の発音は間違っていると感じるとき焦ります。	0.21	0.10	<b>0.71</b>	0.31	0.09
10 自分では正しいと思っていた発音が、実は間違っていたとき焦ります。	0.12	0.20	<b>0.80</b>	0.13	0.03
11 間違ったアクセントやイントネーションで話してしまったとき、焦ります。	0.20	0.17	<b>0.80</b>	0.18	0.07
12 以前習った発音が、実は間違っていたと気付いたとき、焦ります。	0.09	0.20	<b>0.67</b>	0.02	0.08
<b>IV 低い日本語発音力に対する不安</b>					
1 先生が私の言った言葉と違う言葉に聞きとったとき、発音が悪いのではと不安になります。	0.06	0.07	0.14	<b>0.66</b>	0.16
2 先生が私の日本語を聞いて分からない顔ををしたとき、発音が悪いのではと不安になります。	0.06	0.01	0.05	<b>0.83</b>	0.22
3 先生に発音が悪いと何度も直されると焦ります。	0.08	0.00	0.21	<b>0.51</b>	0.04
4 先生が私の日本語を聞いて「もう一度お願いします」と言った時、発音が悪いのではないかと不安になります。	0.27	0.19	0.08	<b>0.59</b>	0.07
5 他の学生が私の日本語を聞いて笑ったとき、発音が悪いのではないかと不安になります。	0.34	0.13	0.22	<b>0.47</b>	0.03
6 他の学生が私の言った日本語が分からないとき、発音が悪いのではと不安になります。	0.26	0.10	0.33	<b>0.85</b>	0.09
<b>V 日本語での発話における発音不安</b>					
22 できる限り流暢な日本語で話そうと思うとき、うまく発音できるか不安になります。	0.24	0.31	0.09	0.11	<b>0.64</b>
23 先生があまり使ったことのない言葉を自分が使うとき、うまく発音できるか不安になります。	0.27	0.42	0.01	0.22	<b>0.68</b>
24 自分の言いたいことをうまく表現したいとき、正しく発音できるか心配です。	0.29	0.20	0.15	0.18	<b>0.70</b>
25 緊張で早口になってしまうとき、発音も悪くなっているのではないかと不安になります。	0.29	0.14	0.17	0.27	<b>0.54</b>

表4 日本語発音不安尺度の統計量

	平均値	分散	標準偏差	項目数
日本語発音不安尺度	111.95	677.11	26.02	34
因子1	37.61	127.31	11.28	12
因子2	20.77	35.17	5.93	6
因子3	19.92	34.47	5.87	6
因子4	19.7	33.09	5.75	6
因子5	13.18	17.06	4.13	4

注)因子1:「特定の教室活動での発音不安」  
 因子2:「発音の不確かさに対する不安」  
 因子3:「発音の間違いにに対する焦り」  
 因子4:「低い日本語発音力に対する不安」  
 因子5:「日本語での発話における発音不安」

に高いと言える。

**分散分析結果**…発音についての不安アンケート調査では、調査対象者に自己申告で日本語レベルを記入してもらうのに加え、日本語能力試験などの合否も記入してもらった。それをまとめると、日本語能力試験 2 級レベルの学習者、日本語能力試験 1 級合格レベルの学習者、そして、日本語能力試験 1 級、及び中国国家教育部主催の日本語専攻 8 級試験合格レベルの学習者の 3 つに分けることができた。そこで、初級レベルを日本語能力試験 2 級程度、中級レベルを日本語能力試験 1 級合格程度、上級レベルを日本語能力試験 1 級、及び中国国家教育部主催の日本語専攻 8 級試験合格程度とみなし、レベルの分類を行った。

日本語発音不安尺度によって得られた回答の平均値をレベル別にみると、初級の学習者のほうが上級の学習者より発音に対する不安が高いのではないかと思われた。そこで、発音に対する不安とレベル差にどのような関係があるのかを調べるため、各レベルの平均値の間に有意差が存在するかどうかを検討した。表 5 は、平均値の差が有意であった項目（計 13 項目）における各レベルの平均値と標準偏差を示したものである。分散分析の結果、表 6 に示したように、日本語発音不安尺度の 13 項目において、レベルの効果は有意であった。また、多重比較によれば、「先生が私の日本語を聞いて分からない顔をしたとき、自分の発音が悪いのではないかと不安になります」では、初級と上級の間に有意差があった。しかし、初級と中級、及び中級と上級の間の差は有意ではなかった。「先生に発音が悪いと何度も直されると焦ります」では、中級と上級の間に有意差があったが、それ以外のレベル間の差は有意ではなかった。「先生が私の日本語を聞いて「もう一度お願いします」と言った時、発音が悪いのではないかと不安になります」では、初級と上級の間に有意差があったが、それ以外のレベル間の差は有意ではなかった。「以前覚えた単語を初めて使うとき、正しく発音できるか心配です」では、初級と上級の間に有意差があったが、それ以外のレベル間の差は有意ではなかった。「読む練習をしていない文章を読むと

き、正しく発音できるか心配です」では、初級と上級の間に有意差があったが、それ以外のレベル間の差は有意ではなかった。「どんなイントネーション（アクセント）か分からない文を読むとき、正しく発音できるか不安になります」では、初級と上級の間に有意差があったが、それ以外のレベル間の差は有意ではなかった。予備調査における自由記述では、全体の割合をみると、初級の学習者よりも上級の学習者の方が、アクセントとイントネーションに不安を感じているという回答が若干多かったが、それは上級の調査対象者が15名と少なかったことが影響していると思われる。「自分の言いたいことをうまく表現したいとき、正しく発音できるか心配です」では、初級と上級の間に有意差があったが、それ以外のレベル間の差は有意ではなかった。「クラスメートや先生の前でスピーチをし、それに対する質問に答えるとき、うまく発音できるか心配です」では、初級と中級の間に有意差があったが、それ以外のレベル間の差は有意ではなかった。「クラスメートと会話練習をするとき、うまく発音できるか不安になります」では、初級と中級、初級と上級の間に有意差があったが、中級と上級の間の差は有意ではなかった。「とても静かな教室で発言するとき、うまく発音できるか不安になります」では、初級と中級の間に有意差があったが、それ以外のレベル間の差は有意ではなかった。「日本人教師の前で話すとき、うまく発音できるか不安になります」では、初級と上級の間に有意差があったが、それ以外のレベル間の差は有意ではなかった。「授業の予習を全くしていないとき、うまく発音できるか不安になります」では、初級と中級、初級と上級の間に有意差があったが、中級と上級の間の差は有意ではなかった。「みんなが自分の話す日本語を聞いているとき、うまく発音できるか不安になります」では、初級と中級の間に有意差があったが、それ以外のレベル間の差は有意ではなかった。

以上をまとめると、初級と上級の間に有意差があったのは、13項目中7項目、初級と中級の間に有意差がみられたのは3項目、中級と上級の差が有意で

あったのは1項目、初級と中級、及び初級と上級の差が有意であったのは2項目であった。初級と中級、または初級と上級の間に比較的多く有意差がみられたが、中級と上級の間に有意差があったのは1項目だけだった。このことから、各レベルの平均値の差が有意であった項目(計13項目)に関してみると、初級の学習者は、発音上の不安が比較的大きいという傾向がみられるが、日本語のレベルが高くなるにつれて、発音への不安とレベルとの間に一定の関係性はあまりみられないということが分かる。

表5 各レベルの平均値と標準偏差

	項目	レベル	度数	平均値	標準偏差
2	先生が私の日本語を聞いて分からない顔ををしたとき、自分の発音が悪いのではないかと不安になります。	初級	92	3.90	1.130
		中級	50	3.56	1.358
		上級	59	3.02	1.239
3	先生に発音が悪いと何でも直されると焦ります。	初級	91	3.22	1.428
		中級	48	3.48	1.557
		上級	59	2.71	1.246
4	先生が私の日本語を聞いて「もう一度お願いします」と言った時、発音が悪いのではないかと不安になります。	初級	91	3.33	1.193
		中級	50	3.02	1.421
		上級	59	2.81	1.167
14	以前覚えた単語を初めて使うとき、正しく発音できるか心配です。	初級	91	3.30	1.243
		中級	50	2.92	1.226
		上級	59	2.59	0.893
17	読む練習をしていない文章を読むとき、正しく発音できるか心配です。	初級	91	3.86	1.170
		中級	49	3.55	1.324
		上級	59	3.32	1.224
18	どんなイントネーション(アクセント)か分からない文を読むとき、正しく発音できるか不安になります。	初級	90	4.09	1.167
		中級	50	3.56	1.387
		上級	59	3.40	1.208
24	自分の言いたいことをうまく表現したいとき、正しく発音できるか心配です。	初級	92	3.39	1.138
		中級	50	2.92	1.291
		上級	59	2.83	1.101
29	クラスメートや先生の前でスピーチをし、それに対する質問に答えるとき、うまく発音できるか心配です。	初級	92	3.42	1.122
		中級	50	2.86	1.340
		上級	58	2.98	1.116
34	クラスメートと会話練習するとき、うまく発音できるか不安になります。	初級	92	3.11	1.143
		中級	50	2.54	1.199
		上級	58	2.57	0.975
38	とても静かな教室で発言するとき、うまく発音できるか不安になります。	初級	92	3.15	1.292
		中級	50	2.56	1.280
		上級	58	2.66	1.085
39	日本人教師の前で話すとき、うまく発音できるか不安になります。	初級	92	3.71	1.153
		中級	49	3.18	1.564
		上級	59	3.14	1.306
40	授業の予習を全くしていないとき、うまく発音できるか不安になります。	初級	91	4.14	1.131
		中級	50	3.26	1.482
		上級	59	3.58	1.177
41	みんなが自分の話す日本語を聞いているとき、うまく発音できるか不安になります。	初級	92	3.63	1.174
		中級	50	3.06	1.406
		上級	59	3.31	1.290

表 6 分散分析表

項目		平方和	自由度	平均平方	F値
2	先生が私の日本語を聞いて分からない顔をしたとき、自分の発音が悪いのではないかと不安になります。	条件 28.169	2	14.085	9.440*
	誤差	295.423	198	1.492	
	全体	323.592	200		
3	先生に発音が悪いと何度も直されると焦ります。	条件 16.901	2	8.450	4.250*
	誤差	387.685	195	1.988	
	全体	404.586	197		
4	先生が私の日本語を聞いて「もう一度お願いします」と言った時、発音が悪いのではないかと不安になります。	条件 9.961	2	4.980	3.206*
	誤差	306.039	197	1.553	
	全体	316.000	199		
14	以前覚えた単語を初めて使うとき、正しく発音できるか心配です。	条件 18.089	2	9.044	6.882*
	誤差	258.906	197	1.314	
	全体	276.995	199		
17	読む練習をしていない文章を読むとき、正しく発音できるか心配です。	条件 10.587	2	5.294	3.527*
	誤差	294.147	196	1.501	
	全体	304.734	198		
18	どんなイントネーション(アクセント)か分からない文を読むとき、正しく発音できるか不安になります。	条件 17.114	2	8.557	5.586*
	誤差	300.253	196	1.532	
	全体	317.367	198		
24	自分の言いたいことをうまく表現したいとき、正しく発音できるか心配です。	条件 13.694	2	6.847	5.023*
	誤差	269.898	198	1.363	
	全体	283.592	200		
29	クラスメートや先生の前でスピーチをし、それに対する質問に答えるとき、うまく発音できるか心配です。	条件 12.725	2	6.362	4.583*
	誤差	273.470	197	1.388	
	全体	286.195	199		
34	クラスメートと会話練習するとき、うまく発音できるか不安になります。	条件 15.223	2	7.611	6.156*
	誤差	243.557	197	1.236	
	全体	258.780	199		
38	とても静かな教室で発言するとき、うまく発音できるか不安になります。	条件 14.787	2	7.393	4.867*
	誤差	299.293	197	1.519	
	全体	314.080	199		
39	日本人教師の前で話すとき、うまく発音できるか不安になります。	条件 15.042	2	7.521	4.392*
	誤差	337.338	197	1.712	
	全体	352.380	199		
40	授業の予習を全くしていないとき、うまく発音できるか不安になります。	条件 27.825	2	13.913	9.040*
	誤差	303.170	197	1.539	
	全体	330.995	199		
41	みんなが自分の話す日本語を聞いているとき、うまく発音できるか不安になります。	条件 11.187	2	5.593	3.474*
	誤差	318.763	198	1.610	
	全体	329.950	200		

注) \* $p < .05$

#### 4. まとめ

本研究では、母語使用環境において、中国語を母語とする日本語学習者が教室内で日本語を発音する際、日本語の発音に不安を感じているのか、感じているのであれば、どのような日本語の発音に不安を感じているのか、また、どのような状況下で不安を感じるのかなど、学習者の発音についての不安の現状を明らかにした上で、日本語の発音不安尺度を作成し、その信頼性を分析することを目的に調査を行った。

調査の結果、初級レベルと中級レベルでは、日本語の発音に不安を感じてい

ると答えた学習者が感じていないと答えた学習者を上回り、日本語の発音に不安を感じている学習者の存在が明らかになった。また、どのような日本語の発音に不安を感じるかの自由記述からは、日本語レベルに関わらず「アクセントとイントネーションに不安を感じる」という回答が最も多く得られた。さらに、どのような状況下で発音に不安を感じるかの自由記述からは、発音に不安を感じる状況 41 項目が得られ、それらの内容的分類を行った結果、「不確かさ (10)」「間違い (7)」「教師 (6)」「特定の教室活動 (6)」「他の学習者 (3)」「発話 (3)」「能力 (3)」「言語処理 (3)」の 8 内容に分けることができた。これらの発音に不安を感じる状況 41 項目を質問項目とし、日本語の発音についてのアンケート調査を行い、因子分析を行った結果、最終的に 34 項目の不安項目が選定され、5 つの因子に分けられた。各因子に含まれる項目の内容的特徴から、因子 1 を「特定の教室活動での発音不安」、因子 2 を「発音の不確かさに対する不安」、因子 3 を「発音の間違いに対する焦り」、因子 4 を「低い日本語発音力に対する不安」、因子 5 を「日本語での発話における発音不安」と命名した。また、尺度の内部一貫性を検討する信頼性分析では、日本語発音不安尺度の高い信頼性が確認された。

さらに、レベル別にみた各不安項目の平均値の差を分散分析によって調査したところ、41 項目中 13 項目でレベル間の平均値に有意差があり、初級の学習者のほうが、発音への不安が比較的大きいという傾向がみられた。

以上の調査により、中国語を母語とする日本語学習者は教室において発音に不安を感じているという現状が明らかになった。また、発音不安尺度の作成から、今後の発音不安調査への足がかりを築くことができた。しかしながら、既存の不安尺度との関係や、対人不安、日本語に対する自信との関係などがまだ考慮されていないため、尺度としての妥当性を検討する必要がある。よって、今後の課題は、日本語発音不安尺度の妥当性を検討し、教育現場での使用につなげ、学習者への発音教育に役立てていくことである。

### <注>

- <sup>1)</sup> 本研究では、MacIntyre, P.D. & Gardner, R.C. (1994) を参考に、「第二言語学習における発話や聴解などに特定の関わる緊張や懸念の感情」を第二言語不安と呼ぶ。
- <sup>2)</sup> 母語使用環境とは、学習者の母語が使用されている社会環境を指し、目標言語使用環境とは、学習者の目標言語が使用されている社会環境を指す (元田 1997)。
- <sup>3)</sup> 音声とは、人間が意識的に音声器官を使い伝達目的をもって発する音であり、発音とは、音声を発する (調音までも含めた) 行為を指す (鹿島 2002)。

### <参考文献>

- Aida, Y. (1994) Examination of Horwitz, Horwitz, and Cope' s construct of foreign language anxiety : The case of students of Japanese. *The Modern Language Journal*, 78, 155-168.
- Ely, C.M. (1986) An analysis of discomfort, risktaking, sociability, and motivation in the L2 classroom. *Language Learning*, 36, 1-25.
- Horwitz, E.K., Horwitz, M.B. & Cope, J. (1986) Foreign language classroom anxiety. *The Modern Language Journal*, 70, 125-132.
- 鹿島央 (2002) 『日本語教育をめざす人のための基礎から学ぶ音声学』スリーエネットワーク
- 倉八順子 (1995) 「不安と第二言語習得」『明治大学人文科学研究所紀要』第 37 冊、pp.79-100
- MacIntyre, P.D. & Gardner, R.C. (1988) The measurement of anxiety and applications to second language learning. *An annotated bibliography* (Research Bulletin No.672). London, Ontario, The University of Western Ontario, Department of Psychology.
- MacIntyre, P.D. & Gardner, R.C. (1989) Anxiety and second-language learning : Toward a theoretical clarification. *Language Learning*, 39, 251-275.

- MacIntyre, P.D. & Gardner, R.C. (1991) Language Anxiety : Its Relationship to Other Anxieties and to Processing in Native and Second Languages. *Language Learning*, 41, 513-534.
- MacIntyre, P.D. & Gardner, R.C. (1992) Integrative Motivation, Induced Anxiety, and Language Learning in a Controlled Environment. *Studies in Second Language Acquisition*, 14, 1, 197-214.
- MacIntyre, P.D. & Gardner, R.C. (1994) The Subtle Effects of Language Anxiety on Cognitive Processing in the Second Language. *Language Learning*, 44, 2, 283-305.
- 元田静 (1997) 「日本語教室内および教室外における第二言語不安」『教育学研究紀要』第 43 巻、第二部、中国四国教育学会、pp.435-440
- 元田静 (1998) 「第二言語不安尺度の史的発展と課題」『教育学研究紀要』第 44 巻、第二部、中国四国教育学会、pp.432-437
- 元田静 (2000) 「日本語不安尺度の作成とその検討」『教育心理学研究』第 48 巻、第 4 号、日本教育心理学会、pp.422-432
- 西谷まり・松田稔樹 (2003) 「ベトナム人日本語学習者の外国語不安」『一橋大学留学生センター紀要』第 6 号、pp.77-89
- Phillips, E.M. (1992) The Effects of Language Anxiety on Students' Oral Test Performance and Attitudes. *The Modern Language Journal*, 76, 1, 14-26.
- Young, D.J. (1986) The Relationship Between Anxiety and Foreign Language Oral Proficiency Ratings. *Foreign Language Annals*, 19, 5, 439-445.
- Young, D.J. (1990) An Investigation of Students' Perspectives on Anxiety and Speaking. *Foreign Language Annals*, 23, 6, 539-553.